

第3研究部



NO.1

令和8・9年度 研究主題

幼児が主体的に遊ぶための環境とは
～やってみたいと心を動かして遊ぶ姿から～

研究園 三軒家西 粉浜 住吉 墨江 玉出 天下茶屋 五条 真田山 味原
大江 生魂 鶴橋 常盤 長吉 長吉第二 瓜破北 加美北

第1回研究部会 令和8年5月20日（水） 場所 加美北幼稚園

今年度の研究の進め方について

主題に至った経緯

昨年度第3、4ブロックで幼小の接続や遊びの中の学びについて研究を進めてきた。幼児は日々の中で生活や遊びの中で、様々な環境に心を動かし、自分なりに興味をもって関わりながら遊んでおり、夢中になって遊ぶ中で新しい発見をしたり、考えたり試したりして遊びの中で学んでいる。その中で、教員は子どもがやってみたいと自ら遊びたくなるような、幼児期の学びにふさわしい環境を工夫することが求められているということが研究を通して明らかになった。そこで、令和8年度の研究主題を、「幼児が主体的に遊ぶための環境とは やってみたいと心を動かして遊ぶ姿から」とした。日々の子どもの姿を丁寧にみとり、その姿から環境を考え、実践し、振り返ることを積み重ねていくことで、今年度の研究につなげていきたい。



講話：「今年度の研究の取組に向けて」

大阪市教育局事務局 指導部 初等・中学校教育担当 指導主事

○環境の意義

- ・文部科学省教育課程企画特別部会では、全ての幼児教育施設において、遊びの中で直接的、具体的な体験を通して学びを保证するために幼児教育を充実していくという方向性が示されている

・幼児教育ワーキンググループ保育専門委員会の資料では、現在の社会状況において幼児期の発達に必要な様々な人や物と直接的、具体的に関わる体験を十分に確保することが困難になっていることが示されている

・3歳から5歳という大切な時期に、人生の土台となる力や価値観を、環境を通して育むことは、教育の営みの中でこれまで以上に尊重しなければならず、高度な教育実践となっている



○環境について

- ・環境に触れ、何かを取り入れ、また表現として外に出していくという交流そのものが生きる出発点
- ・生命性の育ち、園における生活と遊び、学びの発展性・反復性の3つの視点の重要性
- ・子どものやってみたいを支える環境の工夫とは、いろいろな選択肢が環境の中に豊かに用意されていることであり、それが試行錯誤を促し、遊びを深めていくことにつながる
- ・遊びの展開のサイクルは、個別の興味が多層に広がっていく「拡散」と、協同的な遊びへと深まる「収束」
- ・主体的な遊びを支えるのは、設計された環境と子どもの動きに応答して展開していく環境

○今年度の研究部の目指す3つのビジョン

- ・個人の歓び
- ・組織の誇り
- ・実践の蓄積

○感想・学んだこと

講話では、現代社会の状況から、環境の重要性や研究の意義について学んだ。その上で、環境は幼児の育ちにおいて大切であり、その幼児の育ちを支えるために、教師として様々な工夫をしていかなければいけないことを感じた。日々の幼児の姿から、環境を考え、実践し、振り返ることを積み重ねていくこと、また、講話から学んだことを生かし、今年度の研究に取り組んでいきたい。